支部だより

香港支部

瀬尾ゆき（S平3）

香港外語会は10月5日に太古プレース内のバターフィールズクラブにて同窓会を開催しました。皆様お忙しい中、新会員4名を含む27名の方が参加されました。前回に引き続き、旧西ヶ原校舎の映像つき現状レポートや、香港外語会発足25周年記念の外大に関する特別クイズ大会で大変盛り上がりました。現在の登録メンバーは63人、卒業年では昭和18年から平成16年まで、学科も中国語学科をはじめ11語学科に及んでいます。今後も年に2回の同窓会を通して同窓生の絆を保っていきたいと思っております。

10月までの幹事、野口裕司（R昭62）、瀬尾ゆきにかわり、 新幹事は 磯部聡子さん（E平7）、各務美雪さん（C平10）、中西武司さん（C平16）です。

パリ外語会昨今

沼田睦子（F昭44）

2000年の東京外語大・国立パリ政治学院（かの通称シアンスポ）交流協定成立を機にパリ外語会が再興され、翌2001年初秋、今は亡き名誉教授田島宏先生をお迎えした6年振りの同窓会開催が、母校の府中キャンパス移転と東京外語大創立百周年記念会館オープンという二大慶事と重なったことは、本会報94号でお知らせした通りです。会場は、19世紀フランス産業革命の原動力となりながら1990年の閉山後失業問題に喘いでいた北フランス炭鉱地帯の中心地ヴァランシエンヌに一大自動車工業団地を築き、フランス政財界の関心を集めていたトヨタ自動車のシャンゼリゼショールームサロン。当時トヨタモーターヨーロッパパリ事務所長錫村寛海氏（F昭44）からの提供でした。

時を措かずその冬には、本誌シリーズ「わが専攻語科ストーリー・フランス語科」執筆取材にご自身の研究を兼ねて来仏された渡邊啓貴教授（F昭53）を囲んで一同再会。この折は渡邊教授と同期の遠野栄治氏（当時オンワード樫山フランス社長）が同社経営による蕎麦レストラン・円を会場として手配下さり、パリ随一美味な正調手打ち蕎麦が賞味できました。

20年も昔、当時毎日新聞パリ特派員松本伸夫氏（F昭38）が、パリ外語会が低迷がちなのは「メダカのように群れたがる日本人の習性が軽蔑されるフランスの土地柄」の所為もあろうか、とコメントされたことがあります。ウソかマコトか、2000年の再興以来、同窓会開催に弾みをつけて下さっているのはフランス語ならぬスペイン語出身の坂田一彦氏（S昭41・前ホンダヨーロッパ社長）です。氏の音頭による2002年忘年会では、「ラテン系言語を学んだにもかかわらず、最後数年のパリを除けばすべてゲルマン系言語国に駐在し」、帰国を控えた宮内祥之氏（I昭41・当時ユーロペンテル）がラテン気質とゲルマン気質の相違について興味深い観察を披露されました。

2003年秋には坂田氏も帰国されましたが、ご自宅に設宴下さった歓送会二次会は実に流麗なる氏の中南米ハープ独奏会となりました。ご帰国後、斑尾高原にハープミュージアムを開設、ハープ国際交流のため毎夏来欧される折の同窓会がパリ外語会の定期会合になっています。

また、非力な幹事を会場探しに名簿作成にと支援下さるのもスペイン語卒の山下俊一氏（S昭61・ANA）です。

これは、パリ外語会に集う同窓生の出身語別構成変化の反映でもありましょう。80年代のバブル期にパリ外語会登録者最多55名を数えた時代でもフランス語以外の出身者はゼロから2割を切っていましたが、2000年以降は35名を前後する登録者の3分の1以上が他語出身、2005年在仏日本商工会議所会頭に就任された後藤豊氏は英米語（E昭47・資生堂）のご出身です。

同窓生の方々の製造、商社、運輸、報道等各界における活躍については多言を要しません。学界の長老格には哲学専攻の大阪外大名誉教授西村浩太郎氏（F昭37）がいらっしゃいます。

写真は2005年夏の同窓会。参会者（敬称略）：坂田一彦、錫村寛海、林勝義（F昭46・富士フィルム）、吉本卓郎（F昭46・JATCO）、日渓哲人（Ic昭47 ・AON）、江田仁（H昭49・三菱重工）・夫人佐藤真知子（R昭49）、池田尚弘（S昭53・バイオラックス）、長谷部芳則（F昭54・マキタ）、関野徹（Po昭57・東芝）、青柳茂（In昭58・ユネスコ）、林正和（F昭58・演劇評論）、大廣義徳（F昭60・伊藤忠）、橋野悦男（F昭60・トヨタ自動車）、山下俊一、依田一（IM 昭63・ NHK）・夫人牧陽子（Pr平7）、沼田睦子（F昭44・カイエデュジャポン誌）

秋田ツアー歓迎交歓会

佐藤康一（C平5）

外語会秋田ツアーにあわせて2005年10月22日（土）に秋田支部での交歓会が開かれた。（関連記事54頁）小雨の降る中ではあったが、会場のホテルメトロポリタン秋田には、全国から16名のツアー参加者と、中嶋嶺雄前学長（C昭35）をはじめとする17名の支部会員が集まり、賑やかな夕べとなった。

司会進行は米田進支部幹事長（E昭50）が務めた。まず歓迎側の幸野稔支部長（E昭36）が挨拶し、卒業後帰郷した若者らが英語教育に尽力していることを紹介した。続いて訪問側代表の古茶兵衛外語会副理事長（R昭25）が、国立大学法人化による構造財政改革の影響を受けながらも、良質の教育プログラムを提供している母校の近況を報告した。

中嶋前学長の乾杯で宴が始まり、しばらくの懇談のあとで、参加者の近況報告がなされた。インドネシアの駐在員になる予定だったのが、土壇場でインドへの転勤に変わり苦労した体験や、夫婦でモンゴルに住んでいたときの話、大学や高校で教員として奮闘している話など、それぞれの参加者の外語会員らしい人生が楽しげに語られ、時には笑いがこぼれ、交歓の時間はいくらあっても足りないような盛り上がりとなった。支部会員には着物姿で駆けつけた秋田美人もおり、華やかな交歓会となった。宴は田中功会員活動委員会委員長（M昭37）の発声で締められた。

近年、秋田支部では若年層の支部会員が急激に増えつつあり、本交歓会においても支部からの参加17名中7名が平成の卒業であった。一年前も国際教養大学開学にあわせて異動となった外語恩師を交えての会を秋田市内で開いており、ますます支部として盛り上がりつつある。

（秋田支部幹事）

新潟支部

富山栄子（R昭61）

関武治前支部長（E昭6）が高齢のため勇退され、以下のような役員体制になりました。

支部長　　山本虎男（In昭24）
事務局長　栃倉浩（R昭41）
事務局　　富山栄子（R昭61）

年一回例会を開いていますが、昨年は趣向を変えて新潟の巻まで出向き、全国第一号地ビールのエチゴビールを味わいながらの楽しい会になりました。新潟県内の東京外語ご出身の方、是非連絡ください。待っています。

（連絡先）〒951-8123　新潟市下旭町118番地
TEL・FAX：025-228-3145、eikod@hotmail.com

富山栄子宛

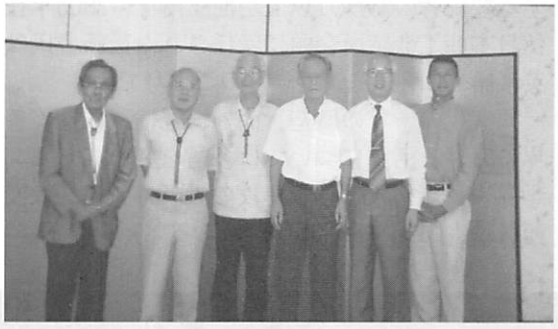
島根支部

鈘川兼光（C昭16、12月）

島根外語会は昭和30年代半ば頃より昭和50年代終わりまで、数年毎に集まって一夕の絆を深めておりました。それは殆んど県内教職員で、他の分野の同窓生は県内での消息が得難いこともありました。昭和60年代に入ると、諸先輩、同世代の物故と、次世代との消息、情報のネットワークが活かされないまま過ぎてきました。

今夏、ブラジルより10月まで郷里に一時帰国の丸國穂氏（Po昭35）より突然のご連絡を受けたので、この機会を逃さないようにと、久しく途絶えていた支部外語会を復活したいと思い、急遽連絡のつく下記の方達にご案内したところ、幸い全員のご参加を得ました。青木伸次氏（S平6）、牛尾郁夫氏（E昭41）、大島至郎氏（Ma昭29）、竹田弘氏（R昭21）、丸國穂氏と鈘川の6名が益田市の三好家ホテルに9月24日、集まりました。卒業年次も50年余の隔たりがあり、学校所在地も、竹橋時代のおんぼろ校舎や西ヶ原キャンパスと時代の変遷が感じられ、また丸氏は中野上高田の日新学寮の住人であった日の思い出があり、同じく其処で過ごした小生にも60余年の昔の懐旧の思い一入のものがありました。

復活第1回の支部会であり、シフトダウンという場でもあったので、今回は顔つなぎだけの会になり、次回を期し、丸氏のブラジルでのご活躍をお祈りして午後3時、3時間余の会を閉じました。



（46頁より続く）

昭和26年中国科の集い

中国科昭和26年卒のクラス会が11月26日開催された。今回より会場を従来の三笠会館より築地のJJK会館（全国情報サービス産業厚生年金基金会館）に変更、午後1時より3時迄、21名の参加者があり盛況であった。今回より開催の築地JJK会館は三笠会館に劣らず足の便もよく好評であった。今回はメインスピーカーとして若林茂君（元NHK福岡中央放送局長）よりNHKの近況についての話があった。次回は平成18年11月25日（土）、会場を同じJJK会館で開催することとして散会す。（C昭26　金丸洋二記）